

# かいよう病<sup>びょう</sup>

病原菌名 *Clavibacter michiganensis* subsp. *michiganensis*

## 発生条件

病原菌の生育適温は25～28℃である。

病原菌は被害茎葉とともに土壤中に残り土壌伝染するほか、種子伝染する。発病株からの芽かき、誘引、適葉、摘果などの作業により傷口から病原菌が感染する。



施設栽培では、下葉から萎れ、葉が乾燥して縁から巻き上がり、脱水斑が現れる。病気がすすむと全身萎凋するが青枯病のように急速に萎凋枯死することはまれである。



維管束は褐変する。ひどいと髓部が崩壊する。



施設栽培では果実は白変色後、落果する。

露地栽培では、葉、茎、果実に直径1～2mmのコルク状斑点を生ずる。